

2009 年度

4 年生の一年間

Portfolio I

Reports

SHIRAHAMA SHINPEI@YAMAZAKI Lab.

神戸大学工学部建築学科山崎研究室（生活環境計画研究室）

日付 講義・演習

研究室の主な活動

内容 個人活動

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半 ・ 後半 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一課題 ・ 第二課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体ゼミ (4/6) ・ 全体ゼミ (4/21) ・ 全体ゼミ (5/10) 	<p>研究室について / 自己紹介 / 今後の体制について / 事務連絡</p> <p>ゼミ合宿 (5/10-11) — 近江方面 (沖島・円山水郷・せせらぎ遊園)</p>	<p>最終講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重村力先生 ・ 末包研吾先生
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半 ・ 後半 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一課題 ・ 第二課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体ゼミ (7/7) 	<p>夏期の予定 / 小論文 / 卒計の企画日程確認 / 事務連絡</p>	<p>M1授業</p> <p>「建築計画・設計論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千利先生 ・ 八幡先生 ・ 宮本佳明先生 ・ 他
6月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体ゼミ (7/7) 	<p>夏期の予定 / 小論文 / 卒計の企画日程確認 / 事務連絡</p>	<p>特別講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安藤忠雄先生
7月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登調査 (7/30-8/1) 	<p>能登方面 (金沢市・輪島市・門前長道下地区)</p>	<p>京都市まちづくりコンパ</p> <p>→ 途中離脱</p>
8月	夏期休講				
9月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文制作 > 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究制作活動 ・ 建築学各職員 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体ゼミ (10/2) ・ 全体ゼミ (10/13) ・ 全体ゼミ (10/20) 	<p>丹波方面 (篠山市・天橋立・伊根浦・加悦)</p> <p>後期の体制について / 小論文最終確認 / 修論企画確認 / 事務連絡</p> <p>小論文発表会 / 修論中間発表会前 / 後期新ムバ - 歓迎会</p> <p>修論中間発表会後半 / 今後の予定</p>	<p>ラドスケープコンパ</p> <p>→ 佳作入賞</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究企画書提出 ・ 中間発表会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体ゼミ (11/27) 	<p>冬期の予定 / 指針・課題の設定</p>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬期休講 		<ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパート大会 	<p>OBの方々・先生方の前で発表、質疑・アドバイス</p>	<p>B3・M1授業</p> <p>「神戸建築学」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陣内秀信先生 ・ 武田史朗先生 ・ 原宏司先生 ・ 他
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次提出 ・ 設計要旨提出 ・ 第二次提出 ・ 発表会 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終エキスパート 	<p>一次提出図面を基にアドバイス</p>	
2月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 近畿支部論文制作 > 	<p>福山方面 (鞆ノ浦・倉敷市)</p>	<p>DAS推薦投稿</p> <p>神戸卒計展準備活動</p>
3月	春期休講				

ゼミ合宿

5/10(Fri)-11(Sat)

沖島 見学
八幡掘 見学
水郷円山 見学
せせらぎ遊園 見学

研究経過発表@合宿ゼミ

自己紹介 @座談会

5/10(一日目)

目的と意義：琵琶湖の水域における島や堀との生活の関係が景観に及ぼす影響を探る

●沖島

日本で淡水湖の島に人が住んでいる唯一例
南側は漁業、北側は畑作の半農半漁村
漁港ではマイシップ、畑では三輪車が移動手段
細長い切妻屋根が沖に並ぶ風景
島の"くびれ"部分で繋がる



北側：農業の民家と三輪車



南側：漁業の民家と漁船

●八幡堀

全国初の景観法に基づく景観計画対象地区
琵琶湖から城下町への船入堀として堀削
水際は枝垂桜・キショウブが彩る。
船をウキにした渡し橋が印象的

・かわらミュージアム

蛍光灯・オブジェ・舗装材の模様に瓦
周辺家屋を意識したファサード&単位の建物を
連結させた建築物形状。



↑かわらミュージアム

← 八幡堀の渡し橋

5/11(二日目)

目的と意義：湿原地帯に柔軟に適応してきた歴史の痕跡と現代の整備の構造を発見する

●水郷(円山集落)

重要文化的景観第1号「近江八幡の水郷」
内湖と葦原の自然環境と葦産業、生活の結付き
干拓や圃場整備による湿地景観・生態の衰退
湿地の葦原の間にできる舟の道
円山の山裾に広がる集落の干拓前の生活の
様子がいくつか感じ取れる



葦原にできる舟の道と山裾の集落



干拓によって消えた道

●せせらぎ遊園(甲良町)

脱「近代的(水路地下パイプライン化)」農村整備
生活文化拠点・居住拠点としての田園整備
自然生態と共生するエコロジカルな計画
用水の一部を集落内で表出し、親水空間へ
集落の水路網と地域の水系を活かす
流れを活かした浄化システム(池のバクテリア)
集落内、集落間、全体のまちづくりの連携
道や水路によるヒエラルキーの存在



水路上に架かる橋とキショウブ



神社脇に流れる水路とサワガニ



集落内に水路が表出する様子

参：白砂 剛「住の思想」

能登調査

7/30(Thu)-8/1(Sat)

金沢市内	見学
輪島市 門前町	見学
地元医師:定梶先生	ヒアリング
代表幹事:大倉先生	ヒアリング
門前町 道下地区	ファサード調査 夏祭り調査
真脇遺跡	見学

調査後ディスカッション@座談会

7/30(一日目)

目的と意義：金沢市の構造レクチャー、能登半島地震被災集落の復興の様子、道下祭り実態調査

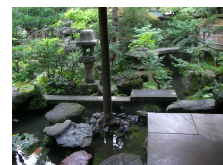
■玉川図書館 (谷口吉郎、谷口吉生)——

金沢は八家の武家屋敷と東西の茶屋街で構成されていた
 その北隣に金沢駅ができ、その反対側が市街化していった
 この図書館はその八家のひとつ旧横山家の地、用水路に注目
 旧専売公社金沢工場の赤レンガを引用
 中庭の内外からの魅せ方と、光のコントロール



■武家屋敷跡野村家——

桂離宮に次ぐ庭園
 ギヤマン入りの障子戸
 屋敷の中心に「上段の間」
 用水の引き込みと、濡れ縁の高低差のコントロール



■前田土佐守家資料館——

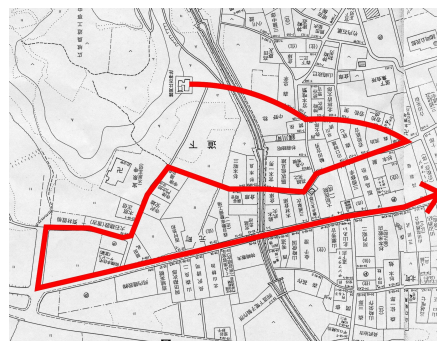
「加賀八家」…本多、長、横山、前田(長種系)、奥村(宗)、村井、奥村(支)、前田(直之系)

■門前町——

震災被害でほとんど建て直し。どこも援助が出る形にするので伝統的な統一感を形成。
 漆塗りした柱と瓦で統一感、庇の高さも綺麗に揃っている(新築は特に)
 資金が無かったのか、白木のままの所も多々。僕は好きじゃない
 蕎麦屋は柱一本だけ使える状態で、それ以外は発注
 ファッションセンターは後ろ半分建て直し。色の境目が明らか。
 輪島ブーム時の10万人の観光客も今では徐々に減って7万人に。

■道下 宵祭り——

17:00 諸岡比古神社 出発
 17:10 山車と合流
 17:15 山車 始動
 17:30 大和医院前で一時停止
 サンフラワー前で休憩
 17:40 再開
 18:00 終了、解体開始



みこしは山車の入れない北町通りや栄町まで回っていく。
 外から来た人も同等な扱いになりつつある。
 旧家は新しく建てようとお金がかかるので、隣家や市に委託
 酒・米・花飾り、各戸にサンフラワーの寄付で果物も。
 今年の人形は、天地人である上杉謙信の息子直江兼次と、その妻お千

■地元医師 定梶先生 ヒアリング——

月 600Sheets (1000 で繁盛しているという目安) 一日2時間は往診。
 往診対象は、公共機関(バス)が利用できない土地に住んでいる人か、外出が困難な人。
 研究者の視点と、医者視点。外部の視点と現地人の視点。おもしろい
 住もうと思う潜在理由＝産める安心と死ねる安心にある。

7/31(二日目)

目的と意義：日常が観光になった朝市の見物、建築物復興の記録、地元民のヒアリング・調査

■輪島朝市

4時5時から出始め、12時に終了。
 店の前に自分の店を出したり、他の人に貸したりしている。
 もともとは地元人の魚介類・野菜の市だった。
 観光客が増えて輪島塗などの店も。
 いまだに大きな空地あり。
 輪島塗体験村は意外にコンパクト。

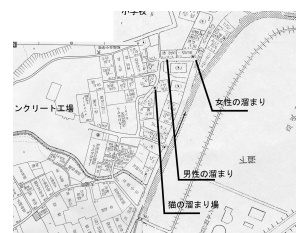


■代表幹事 大倉先生 ヒアリング

30年前まで銭湯で、いまだに夜更かしの習慣が残っている。
 一日に10人くらい人が訪れ、知らぬ間に人がいることもしばしば
 手作りの品や、野菜・魚介類の交換などが行われる。
 出していただいた全ての食材は、この地域で取れたもの。立派なものばかり
 奥さんは助産婦。一年に140人ほどとりあげていた。

■ファースト記録調査

栄町担当。
 山車の折り返し地点近くには、山車を待つ老人たちの姿。
 栄え松は斜面の上にそびえる。
 道ごとにおばあさんたちの溜まりあり。



■道下 本祭り

13:00 準備開始。
 16:30 中断地点から再開
 17:00 折り返し地点到着
 17:30 再開
 18:00 終了
 18:30 格納終了



垂れ幕のあるところ？の各家の前で獅子舞が舞う。
 孫を連れた老人の姿、溜まり場を過ぎるたびにヒーローに。
 折り返し地点で、神様に挨拶。
 てこを使って子供乗せたまま豪快に回転(動画あり)
 格納はフォークリフト使用。旗も短くなり老人仕様に。



8/1(三日目)

目的と意義：補足調査、吉阪氏系列の設計者・神戸大学系列の設計者の建築物の見学

■早朝調査

不足分の調査実施。
朝のウォーキングを行う奥さんの姿。
小学校の前に何かの溜まり。(声はかけられず)

■美麻奈比古神社

参道の直線性。



■真脇縄文遺跡

真脇温泉(ZOO)
外から見た印象的な屋根が、
そのまま着替え・浴室の構造壁に。
男女の浴室はまったく違う印象でおもしろい。

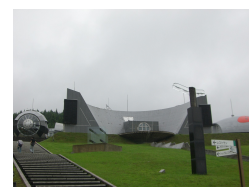


真脇ポーレポーレ
眼下の集落の眺めが美しい。
地形の一部になる建築。

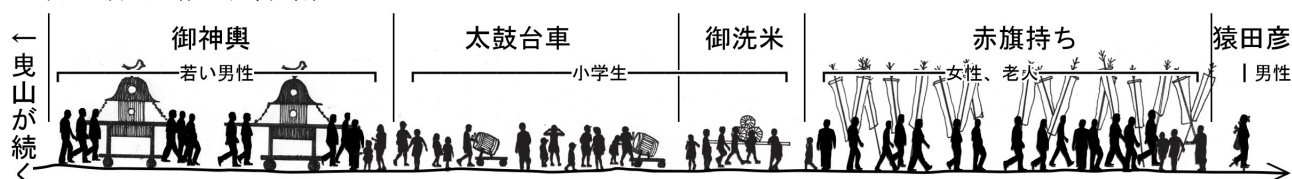


■能登島ガラス美術館

設計:毛綱毅曠(もづなきこう)
神戸大学出身。
ビューサンセットと同じ設計者。
決めの視点をちゃんと持っている。
とても奇抜な形のわりに中は
「美術館」という難しい施設をうまく満足させている。
吹き抜けの中央に配置するEVがガラスじゃなかったり、
仕切り壁や床面がガラスじゃなかったりして少し残念。
ガラス美術館というなら、もっとおもしろい工夫ができたのでは？



巡行の様子(山車省略)



→ 9/7) PPTによるゼミ内調査発表、2/末~3/初) 近畿支部論文作成

ゼミ旅行

9/25(Fri)-26(Sat)

篠山	河原町	見学
天橋立	溝尻地区	見学
	伊根浦	見学
	世屋高原	見学
	加悦地区	見学

スポーツコミュニケーション@ヒーンズドーム

見学後ディスカッション@座談会

9/25(一日目)

目的と意義：伝建地区に指定され、活気付く篠山と落ち着きを保つ伊根浦の景観構造を見る

◆篠山河原町

武家地や町人地の町割り、城下町の基本構造を残す
妻入商家群はアートによる町並み作り
レンタサイクルのネットワークの強化

- ・篠山町営住宅河原町団地(高口恭行+造家研究室)
町並みに同化するモダニズム建築
篠山川の土手と集落の道に挟まれる
団地内に車の入らない道広場、抜け路地



△商家群の舗装路

▽河原町団地、道広場



◆伊根浦

丹後半島北東部入江に位置する漁村

湾口に島があり、干満差も少なく穏やか
昭和初期に連続して建てられた舟屋、主屋、蔵。
島、湾、魚付林が一体となった歴史的風致
湾側は妻入、樹林側は平入で統一された屋根ふせ
舟屋は船を着けるため一階床が傾斜、幅広い開口



△湾岸の舟屋群と魚付林



△舟屋と主屋間の道



△一階の様子

9/26(二日目)

目的と意義：伝建地区指定されて間もない加悦の住宅更新の様子を把握する

◆加悦

丹後縮緬を主力とした商工業地として発展
ちりめん街道を中心として縮緬関連施設が集結
機織の機材を使った新アートも出現
新築にも周囲への意識があつたりなかったり。
土蔵が目立つ



△周囲への意識がある新築

◆ピーンズドーム(三木総合防災公園)

即製立体トラスを使用した最大級ドーム
500年耐久設計
3次元ハイパーサーフェス緑化屋根使用
災害時の応急活動要員の宿泊を考慮
災害時の救護物資の集積を考慮



△ファサード



△エントランス、右)緑化壁

→ 研究的視点から撮影写真に考察を加え、提出

靱ノ浦調査

2/28(Sun)-3/1(Mon)

靱ノ浦	見学
靱ノ浦 雛祭り	実態調査
倉敷美観地区	見学
倉敷ア化ベースクエア	見学

論文草稿チェック@小ゼミ

調査結果討論@小ゼミ

2/28(一日目)

目的と意義：自然構造と文化構造を併せ持つ鞆ノ浦の景観、最近取組まれるようになった雛祭りの様子を見る

▼鞆ノ浦

鞆で潮がぶつかるため、干満を待つ「潮待ちの港」元は群島。幾度の干拓によりそれぞれが繋がる道路整備問題により、架橋案が有力に。新旧の文化が混在し、老若男女の観光地となる

- 万葉や寺社の古代文化
弥生時代から集落が形成していたと云われる狭い町並みの山裾に数十の寺社が立ち並ぶ
- 源平や南北朝の中世文化
源平の戦いから、南北朝時代と戦の狭間となった足利家、福島家、水野家がそれぞれ拠点としたいずれ港湾拠点は尾道に移るが、繋がりが広がる
- 酒蔵や坂本竜馬の近代文化
港湾拠点であったことから酒蔵業が盛ん坂本竜馬ゆかりの地
- 雛祭りやポニョの現代文化
雛祭りは古来存在するが、近年町全体での取組み店や寺社巡りのネットワークにつながる町の華やかさが向上ポニョのモデルになった家、保育園の存在
- 群島や鞆港の自然構造
面的かつ立体的な風景と視点場が存在さらに上記の文化がもたらす景観が重なる



△町並み



△鞆港の常夜灯



△店頭で雛人形を飾る様子

3/1(二日目)

目的と意義：美観地区・重伝建と伝建の様子の違い、同じく街をあげた雛祭りへの取組みを見る

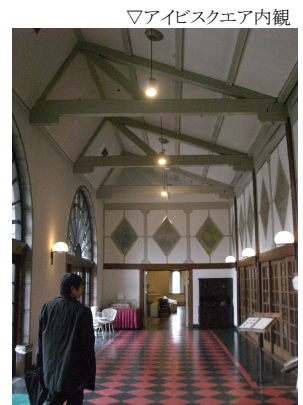
◆倉敷

観光地でありながら工業都市

- 美観地区
倉敷川沿いに連なる白壁の町並み川をパイプとした物資の集積地重伝建地区に指定されている
- 倉敷アイビースクエア
倉敷紡績創業の旧工場宿泊中心の複合観光施設として再生キレイな円を描くアーチ門スクエア型の中庭工場の面影を残す屋根構造



△美観地区倉敷川



▽アイビースクエア内観

→オリジナルな視点から発見事項・注目事項をまとめ、提出